

# II

## 檀園風俗畫帖



## 10 昼飯を食う

仕事の合い間に食事をする場面である。農村では、農作業を家々が共同で行うことが多かった。特に田植え、草取り、収穫などの農作業は、村の男性が集まり集団で行った。仕事は明け方から始まるために、仕事の合い間に、セチャムと呼ばれる間食の時間が何回も挟まれた。昼飯にはマッコリと呼ばれるどぶろくが添えられた。図に酒瓶が描かれていることや、どぶくろの杯として使われた平鉢で何かを飲んでいる姿の男性が描かれていることから、昼飯の場面であると思われる。

セチャムを食べるのは仕事場の野外であるため、食器などは地面に置いたままである。一般に、食事の際に茶碗を手に持つことはないが、労働の間、急いで食事を済ませないといけないこともあり、食器を手にもって食事をしている姿である。飯は匙で、惣菜は箸を用いるのが一般的であるが、図の中の食事では、箸、または匙のみを使用している。露出した上半身、そして片肌脱ぎの姿から仕事の最中である様子がうかがえるが、どぶろくを伴う昼食であるためか、男性たちの表情は非常に明るく、くつろいでいる。

食事や酒を運ぶのは女性と子供の仕事であった。酒瓶は少年が運んできたのか、手にもっていつでも注ぐ準備ができていた姿勢である。飯が入っている籠は女性が運搬してきたものであろう。赤ん坊を授乳している姿から、子供をおんぶして頭上運搬した



ものと思われる。授乳する女性は、おおっぴらに胸を開けている。儒教の道德理念から、両班のみではなく、庶民の女性にも身体を隠すことが厳しく要求されていたが、授乳を必要とする子供を持つ女性が、労働の際に胸を露出することはめずらしくなっ



- |               |                  |
|---------------|------------------|
| 1 鬘 (メンサントウ)  | 1 맨상투            |
| 2 上半身裸        | 2 상반신을 드러내다      |
| 3 蒲団扇         | 3 부들부채           |
| 4 股引          | 4 잠방이            |
| 5 チョゴリ        | 5 저고리            |
| 6 結び紐 (ゴルム)   | 6 고름             |
| 7 匙           | 7 숟가락            |
| 8 井           | 8 사발             |
| 9 パッチ         | 9 바지             |
| 10 片膝立て       | 10 한쪽 무릎을 세우고 앉다 |
| 11 鬚鬚         | 11 가잡나룻          |
| 12 裸足         | 12 맨발            |
| 13 片肌ぬぎ       | 13 한쪽 어깨를 드러내다   |
| 14 飯茶碗        | 14 밥그릇           |
| 15 箸          | 15 젓가락           |
| 16 皿          | 16 보시기           |
| 17 食器を手に持つ    | 17 밥그릇을 손에 들다    |
| 18 盃で酒を飲む     | 18 술잔으로 술을 마시다   |
| 19 匙で食事をする    | 19 숟가락으로 밥을 먹다   |
| 20 揉上げ        | 20 살쩍            |
| 21 胡坐をかく      | 21 책상다리를 하다      |
| 22 平鉢で酒を飲む    | 22 대접으로 술을 마시다   |
| 23 巾着         | 23 행낭            |
| 24 下げ髪        | 24 내린머리          |
| 25 酒瓶         | 25 술병            |
| 26 しゃがむ       | 26 몸을 구부리고 앉다    |
| 27 手拭い頭巾      | 27 쓰개수건          |
| 28 授乳する       | 28 수유하다          |
| 29 赤ん坊        | 29 유아            |
| 30 ねんねこ絆纏     | 30 긴저고리          |
| 31 おんぶ紐       | 31 포대기띠          |
| 32 チマ         | 32 치마            |
| 33 下着のパッチ     | 33 바지            |
| 34 うない髪       | 34 짧은머리          |
| 35 茶碗を膝の上に載せる | 35 밥그릇을 무릎에 올린다  |
| 36 風呂敷 (裸)    | 36 보             |
| 37 飯          | 37 밥             |
| 38 籠          | 38 광주리           |
| 39 犬          | 39 개             |

た。胸をさらけ出して授乳する姿は、育児とともに様々な労働に駆り出された庶民の女性にはごく普通であった。母に連れられてきた子供も昼飯に夢中である。一家総出で働く中で味わう、くつろぎの一時である。(金)

# 11 井戸端の風景



1 卷上げ髪	1 엷은머리
2 チョゴリ (ミンチョゴリ)	2 민저고리
3 結び紐 (ゴルム)	3 고름
4 袖口	4 거들지
5 腰帯	5 허리띠
6 チマ	6 치마
7 下着のPATCH	7 바지
8 藁履	8 짚신
9 釣瓶の綱	9 두레박줄
10 釣瓶	10 두레박
11 水甕	11 물동이
12 井戸	12 우물
13 井戸側	13 우물가
14 結桶	14 나무통
15 箍 <sup>たが</sup>	15 테
16 釣瓶で水を汲む	16 두레박으로 물을 길다
17 お下げ髪 <sup>の</sup> 先飾り (デンギ)	17 댕기
18 たくし上げたチマ (ゴドルチマ)	18 거들치마
19 釣瓶で水を飲む	19 두레박으로 물을 마시다
20 髻	20 상투
21 鉢巻 (網巾)	21 망건
22 胸をはだける	22 가슴을 드러내다
23 上衣 (帖裏)	23 철릭
24 帽子 (黒笠)	24 흑립
25 笠紐	25 갓끈
26 PATCH	26 바지
27 履紐	27 들메
28 輪	28 또아리
29 頭上運搬	29 머리에 이고 나르다

深く掘られた井戸に水汲みに集う人々の様相を描いている。井戸が各戸に設けられていることは少なく、共同井戸が一般的であった。いわゆる井戸端会議は農村で一般的に見られた姿である。井戸は円形で、周囲は石で固定されており、地表面には幅広い石の井戸側が置かれている。水を汲むときにはこの井戸側の上に乗って、釣瓶を落とす。日本の一般的な井戸のように、井戸側が高く積み上げられていない。このような井戸は朝鮮半島から中国では一般的である。また、水を汲み上げるための固定した釣瓶などはなく、汲み上げる者が家から釣瓶を持参する方式であったことが分かる。

井戸の周囲にいるのは大部分女性で、水汲みはも

っぱら女性の仕事であったことがうかがわれる。釣瓶に長い綱をつけて、それを井戸の中に投げ入れ、綱を引張って引き上げる。現在1人の女性が井戸の中に釣瓶を入れ、綱で引き上げようとしている。傍らにはその前に水を汲み上げた女性があり、その水を直接手にして飲んでる男性がいる。この男性は帽子 (黒笠) をとり、臍が見えるほど胸をはだけており、暑いなか汗をかきながら歩いてきたように見受けられる。その背後には、汲み上げた水が入った水甕を頭上に載せて左手で支えながら運搬している老女がいる。右手に汲み上げに使用した釣瓶を持っている。(福田)

## 12 川辺の洗濯



山地を清流が流れ、その川岸で洗濯をする女性達の姿が描かれている。

かつての洗濯は、絹の場合、縫い目をほどいて洗うもので、ほどかずに洗うことは、他人に「恥を見せる」ようなものであった。木綿や麻の場合は、縫

い目をほどかずにそのまま洗うことが一般的であった。この絵に描かれた洗濯物は、綿織物か麻織物と思われる。

綿織物の場合、下洗い、煮洗い、こすり洗い、叩き洗いなど様々な方法を駆使する。暖かい灰汁に浸

1 髪を編む	1 머리를 땀다	15 たくし上げたパッチ	15 걷어올린 바지
2 チョゴリ (ミンチョゴリ)	2 민저고리	16 洗濯物を絞る	16 빨래를 짜다
3 襟	3 깃	17 洗濯物	17 빨래
4 結び紐 (ゴルム)	4 고름	18 洗濯台	18 빨랫돌
5 袖口	5 거들지	19 砧	19 빨래방망이
6 チマ	6 치마	20 砧で打つ	20 빨래방망이로 두드리다
7 下着のパッチ	7 바지	21 裸足	21 맨발
8 片膝立て	8 한쪽 무릎을 세우고 앉다	22 干された洗濯物	22 말린 빨래
9 粗櫛	9 얼레빗	23 帽子 (黒笠)	23 흑립
10 梳櫛	10 참빗	24 上衣 (道袍)	24 도포
11 尻丸出しの子供	11 엉덩이를 드러낸 아이	25 扇子	25 접부채
12 巻上げ髪	12 엮은머리	26 帯 (細条帯)	26 세조대
13 お下げ髪先の飾り (デンギ)	13 댕기	27 扇子越しに見る	27 부채너머로 보다
14 たくし上げたチマ	14 걷어올린 치마		

けた後、洗濯台にのせ、手で揉み、砧で叩いて洗った。これが下洗いで、再び灰汁で煮て叩くことを繰り返す。麻織物の場合、綿織物と異なり、煮洗いの過程がなく、灰汁でゆすいで洗濯台にのせて擦った後、砧で叩いて洗った。洗濯の過程から見ると、この絵は、洗濯場へ運んだ洗濯物を砧で叩いて汚れを取り、清流で洗い流しているの、灰汁に浸けた後の段階であろう。右側の女性2人は、洗濯台の上に洗濯物を広げ、片手で洗濯物を叩いて汚れを落としている。その手前には、浅瀬に立って、洗濯物を清流にひたしながら、両手で絞っている女性がいる。チマとチョゴリの裾をあげてとめており、洗濯時の服装がよく見て取れる。汚れを落とした後、清流で洗い流し、水気を切る作業であろう。

左奥の平らな岩の上には、女性と子供が描かれている。女性の前には、2種類の櫛が置かれ、女性は片膝を立てて座り、両手で髪の毛を結っている。右の岩には、洗い終わったと思われるチョゴリが岩に直に置かれている。干しているのであろう。髪結い中の女性は、洗濯を終えて髪を洗ったところなのだろう。女性達は、洗濯の後、しばしば自らの体も洗った。かつての沐浴は、緑豆を潰した粉状のものや

米ぬかなどを用いて垢を落とした。人目を避け、家屋内や家の裏で部分浴として済ませることが多かった。洗濯に出る機会は、沐浴の格好の機会でもあった。

右の岩陰の男性は、帽子(黒笠)を被り、顔の下半分を扇子で隠している。女性達の沐浴をのぞき見しようとしているのである。朝鮮時代、女性が肌を露出する機会は希だった。女性が太股までさらしている洗濯場の風景を、男性は黙って通り過ぎることが困難であったのだろう。身分の低い者が通りで両班とすれ違う際、丁寧に挨拶をするのが礼儀であったが、両班が扇子で顔を隠している場合は、そうしなくても構わなかった。扇子は身分を隠す役割も果たしたが、ここでは、相手に対する気遣いではなく、自らの素性を隠す意味で用いられているのだろう。砧で叩いている女性は話をしながら作業をしているようだし、左奥の女性も、子供がまわりついてくるにもかかわらず、髪結いに没頭している。洗濯は、家事から離れ、気兼ねなく自らの身だしなみを整えることのできる時間でもあり、また、楽しいおしゃべりの時間でもあった。(中野)

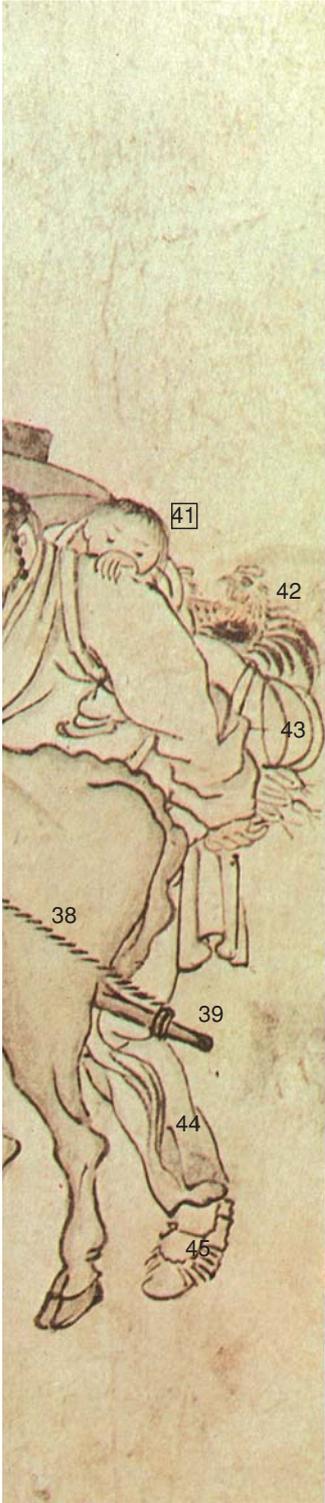
# 13 道行く家族



道をゆく人々がすれ違う様子を描いたものである。左上の男性は馬に乗り、右の一行は、女性と小さい子供が牛に乗り、男性はもう1人の子供と荷物を背負う。馬に乗る男性は道袍を着て、ひさしの広い黒笠をかぶり、扇子で顔を隠している姿から身分の高い両班であると思われる。両班の男性は、女性

の前では顔を隠すのが作法であり、外出時には冬にも扇子を持った。それに対して、図の中の女性は、すれ違う見知らぬ男性の前にかつぎ（長衣）で顔を隠すしぐさをし、礼儀を表している。

朝鮮時代に、馬に乗って外出できるのは男性も女性も両班のみであった。馬を引いている馬丁を伴い、



- |                                    |                 |              |                |
|------------------------------------|-----------------|--------------|----------------|
| 1 帽子 (黒笠)                          | 1 흑립            | 31 荷鞍に座る     | 31 거지개 위에 걸터앉다 |
| 2 笠紐                               | 2 갓끈            | 32 牝牛        | 32 암소          |
| 3 鉢巻 (網巾)                          | 3 망건            | 33 鼻木        | 33 코뚜레         |
| 4 扇子                               | 4 접부채           | 34 頭絡        | 34 우넝기         |
| 5 扇子で顔を隠す                          | 5 부채로 얼굴을 가리다   | 35 手綱        | 35 고삐          |
| 6 上衣 (道袍)                          | 6 도포            | 36 胸懸        | 36 가슴걸이        |
| 7 子馬                               | 7 망아지           | 37 腹帶        | 37 배대끈         |
| 8 乳を飲む                             | 8 어미말의 젖을 물다    | 38 引き綱       | 38 밧줄          |
| 9 馬 <small>しりがい</small>            | 9 말             | 39 尻枷        | 39 물주리막대       |
| 10 鞞 <small>あおり</small>            | 10 밀치           | 40 笠の飾り紐(貝纓) | 40 패영          |
| 11 泥障 <small>あぶみ</small>           | 11 다래           | 41 子供を負ぶう    | 41 아이를 업다      |
| 12 鏡                               | 12 등자           | 42 鶏         | 42 닭           |
| 13 鞍 <small>おもがい</small>           | 13 안장           | 43 荷包み       | 43 붓집          |
| 14 面懸                              | 14 굴레           | 44 脚絆        | 44 행진          |
| 15 馬丁                              | 15 말구종          | 45 履紐        | 45 들메          |
| 16 下げおろした髪                         | 16 풀어내린 머리      |              |                |
| 17 チョゴリ                            | 17 저고리          |              |                |
| 18 パッチ                             | 18 바지           |              |                |
| 19 裸足                              | 19 맨발           |              |                |
| 20 かつぎ (長衣)                        | 20 장옷           |              |                |
| 21 襟                               | 21 깃            |              |                |
| 22 袖口                              | 22 거들지          |              |                |
| 23 かつぎ (長衣) で顔を <small>おおう</small> | 23 장옷으로 얼굴을 가리다 |              |                |
| 24 子供                              | 24 아이           |              |                |
| 25 チョゴリ(半回装)                       | 25 반회장저고리       |              |                |
| 26 チマ                              | 26 치마           |              |                |
| 27 藁履                              | 27 짚신           |              |                |
| 28 荷駄                              | 28 소바리          |              |                |
| 29 荷鞍                              | 29 길마           |              |                |
| 30 鞍当て                             | 30 걸언치          |              |                |

あおり泥障を敷き、その上に載せた乗馬用の鞍に座る両班の男性とは対照的に、右の一行の女性は牛の荷鞍に置かれた荷駄に乗る。外出や旅に馬を用いることは、一般の女性には両班にしか許されず、他に妓女が乗る場合もあった。一般的に、乗り物としては、馬やロバがよく使われていたが、図のように牛の荷鞍の

荷駄に座るのはやや珍しい。牛にはしりがせ尻枷が装着されており、農耕用であることがわかる。牛に乗る女性は、かつぎ(長衣)で頭から上半身を被い、チョゴリは半回装であることから、庶民の中でもやや裕福な農家の女性であろう。

子供をおんぶする男も飾り紐を付けた黒笠を被っており、晴れ着の姿である。子供は父親の背負っている荷物の上に乗る、その後ろには鶏もみえる。晴れの日家族での外出だろうか、庶民としては身なりが整っている。(金)

## 14 帰途につく馬方



馬を利用して荷物などの運搬を職とする、いわゆる日本の馬方にあたる人々の姿である。馬方一行は、荷物運搬の納品先からの帰りなのか、荷鞍は空である。鞍に横木が1本しかないのが荷鞍の特徴であり、その点で乗馬鞍とは区別されるが、図に描かれる馬の鞍はすべて横木が1本である。一行は馬の荷鞍に座り、後ろを向いたり、煙草を吸うなど、一仕事が終わった後の気楽な姿である。髷を結っていない髪型から、馬方の一行にはまだ冠礼前の青年が多いことが窺える。図の右端には、煙管に煙草を詰めている様子の男性が描かれているが、髷を結び、黒笠をかぶっていることから、一行の中ではもっとも年長者であることが分かる。馬方の親方であろう。

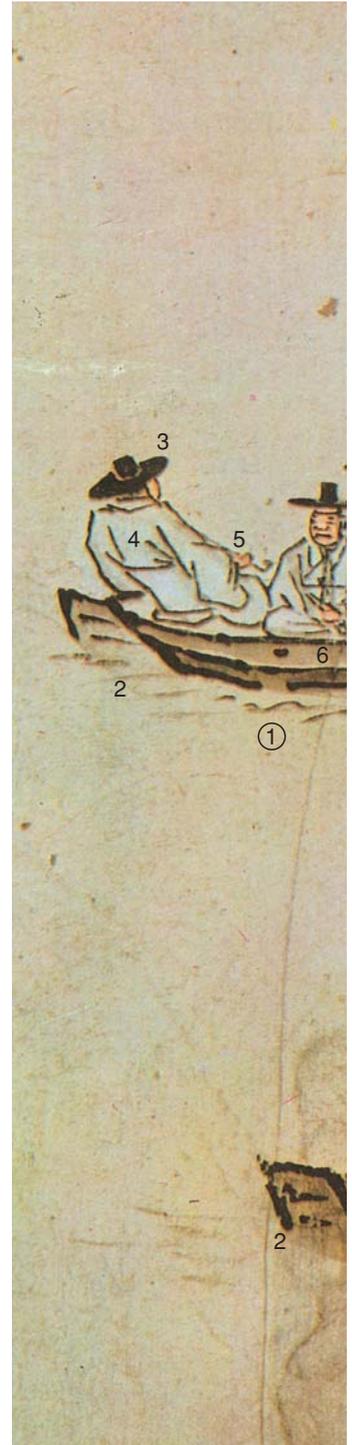
馬方は、朝鮮語でマバリと呼ばれた。マバリは集団を組織して運搬業を営んだが、多くの場合は市井の商人に雇われ、問屋や官衙などに供給する物を運んでいた。朝鮮時代の有力な商人は基本的に官府と結びつき、御用商人的な存在であった。彼らは地方から納められる貢納物の代納や用達請負、そして宮廷の余剰物資の買い入れ、貢納物の払い下げを独占していた。彼らによって官衙に調達するものや官衙から運び出される貨物は膨大であったとされるが、その運送は主に民間のマバリが担っていた。図の中のマバリは官衙に物を運び届けた後なのか、空になった荷鞍に乗って帰途につく、のんびりした姿である。(金)



- |                           |        |                          |                  |
|---------------------------|--------|--------------------------|------------------|
| 1 三角帽子                    | 1 곳갈   | 17 轡 <small>おもがひ</small> | 17 재갈            |
| 2 馬                       | 2 말    | 18 面懸                    | 18 굴레            |
| 3 黄牛                      | 3 황소   | 19 荷鞍の横木                 | 19 마룻대           |
| 4 荷鞍                      | 4 갈마   | 20 頭巾                    | 20 머릿수건          |
| 5 引き綱                     | 5 붓줄   | 21 腰帶                    | 21 허리띠           |
| 6 笠                       | 6 삿갓   | 22 綱                     | 22 밧줄            |
| 7 ざんばら髪                   | 7 다팔머리 | 23 鉄輪                    | 23 쇠고리           |
| 8 チョゴリ                    | 8 저고리  | 24 煙管                    | 24 곰방대           |
| 9 パッチ                     | 9 바지   | 25 火打石                   | 25 부싷돌           |
| 10 脚絆                     | 10 행진  | 26 巾着                    | 26 행낭            |
| 11 藁履                     | 11 짚신  | 27 裾紐                    | 27 대님            |
| 12 鞭当て                    | 12 채찍  | 28 帽子 (黒笠)               | 28 흑립            |
| 13 たてがみ                   | 13 갈기  | 29 煙草を煙管に詰める             | 29 담배잎을 곰방대에 채우다 |
| 14 手綱                     | 14 고삐  | 30 鞍当て                   | 30 걸언치           |
| 15 腹帶 <small>しりがひ</small> | 15 배대끈 | 31 下鞍                    | 31 갈마받이          |
| 16 鞆                      | 16 밀치  |                          |                  |

# 15 満載の渡し船

- |              |                  |
|--------------|------------------|
| ① 渡し船        | ① 나룻배            |
| 2 舳先         | 2 이물             |
| 3 帽子 (黒笠)    | 3 흑립             |
| 4 上衣 (道袍)    | 4 도포             |
| 5 長煙管        | 5 장죽             |
| 6 扇子         | 6 접부채            |
| 7 笠          | 7 삿갓             |
| 8 黄牛         | 8 황소             |
| 9 粗朶 (しりぞせ)  | 9 땀나무            |
| 10 尻枷        | 10 물주리막대         |
| 11 手拭い頭巾     | 11 쓰개수건          |
| 12 チョゴリ      | 12 저고리           |
| 13 チマ        | 13 치마            |
| 14 片膝立て      | 14 한쪽 무릎을 세우고 앉다 |
| 15 髻 (멘산트ウ)  | 15 맨상투           |
| 16 肩衣        | 16 등거리           |
| 17 股引        | 17 잠방이           |
| 18 櫓を漕ぐ (ども) | 18 노를 젓다         |
| 19 櫓         | 19 고물            |
| 20 櫓         | 20 노             |
| 21 冠 (宕巾)    | 21 탕건            |
| 22 草笠        | 22 초립            |
| 23 帯 (細条帯)   | 23 세조대           |
| 24 ざんばら髪     | 24 다팔머리          |
| 25 荷鞍        | 25 길마            |
| 26 下鞍        | 26 길마받이          |
| 27 腹帯 (しりがい) | 27 배대끈           |
| 28 鞞         | 28 밀치            |
| 29 馬         | 29 말             |
| 30 両膝立て      | 30 양쪽 무릎을 세우고 앉다 |
| 31 子供を負ぶって座る | 31 아이를 업고 앉다     |
| 32 積荷に腰掛ける   | 32 태짐 위에 걸터앉다    |



この絵には、川を渡る2艘の渡し船が描かれている。2艘とも、底が平らな渡し船で、人、駄馬、牛を乗せて左側へ向かって進んでいる。櫓こぎの船でも、帆を張ることができる船もあったとされるが、上の船は2名の男が櫓を漕いでいる。手前の船は、何人で漕いでいるか分からないが、やはり櫓こぎと考えられ、帆は確認できない。官船の場合、渡しに配置された渡し船は、大きさの異なる2艘を利用し、人間と荷物とを効率的に分けて運んだとされるが、上の船は10人、下の船は13人が乗っており、人数が若干異なっている。渡し船の大きさに相違はないようだ。

渡し船の乗り方には2艘に共通する点がある。一つは、舳先の平らな場所に泰然と座っている人物がいることだ。帽子(黒笠)を被り、悠々と腰掛け、あるいは煙草を手にしている点から見て、両班層の者と思われる。また、一つは、駄馬や牛が、船の真ん中よりもやや舳先よりに乗船していることだ。渡し船の舷は、舳先から船尾にかけてゆるやかに弧を描いており、比較的舷の高さが低い位置に駄馬や牛がいる。この位置は、渡し場で乗り降りする際に、最も困難が少ないと考



えられ、合理的だと見ることもできよう。駄馬や牛の周囲には、立っている者、座っている者、帽子を被っている者、煙草を吸っている者など様々な人物がいる。成人男性の姿が目立つが、ここには、駄馬や牛を曳いて歩く者も含まれているのだろう。最後の一つは、中央部から船尾よりに、女性、子供などが乗船していることだ。女性は腰をおろしている。

子供は、女性におぶわれていたり、座っていたりしている。下の船には、荷物を背負ったまま腰掛けている行商人（裸負商）の姿も描かれている。上の船で煙草の火をつけている2人の男性は、まげのみの頭で、このうち1人の下衣は短く、ふくらはぎが見えている。重労働を行っていたのであろうか。（中野）

# 16 朝鮮相撲シルム



1 相撲（シルム）を取る	1 씨름을 하다
2 髻	2 상투
3 鉢巻（網巾）	3 망건
4 チョゴリ	4 지고리
5 パッチ	5 바지
6 取り紐（サッパ）	6 살바
7 取り紐（サッパ）に 手をかける	7 살바에 손을 걸다
8 巾着	8 행낭
9 脚絆	9 행진
10 裾紐	10 대님
11 足袋	11 버선
12 地面に手を付く	12 땅바닥에 손을 짚다
13 帽子（黒笠）	13 흑림
14 笠紐	14 갓끈
15 扇子	15 접부채
16 扇子越しに見る	16 부채너머로 보다
17 上衣（中致莫）	17 중치막
18 片膝立て	18 한쪽 무릎을 세우고 앉다
19 藁履	19 짚신
20 皮履（バルマク）	20 발막
21 顎鬚	21 가잠나룻
22 上衣（小鞆衣）	22 창옷
23 膝を抱える	23 무릎을 두손으로 안다
24 飴売り少年	24 엿파는 소년
25 吊り紐	25 멜빵
26 飴	26 엿
27 飴盛り板	27 엿판
28 お下げ髪	28 땅은머리
29 履紐	29 들메
30 両手を地面に付く	30 양손으로 땅바닥을 짚다
31 結び紐（ゴルム）	31 고름
32 頬杖を付いて寝そべる	32 턱을 비스듬히 괴고 눕다
33 フェルト帽（ボンゴジ）	33 병거지

朝鮮相撲シルムを描いている。野外で行う娯楽で、この絵にも男たちが楽しんでいる様相が示されている。相撲には土俵はなく、相手を倒せば勝ちというものであった。相撲をするには、笠をとり、靴を脱ぐが、その他は普段の服装のままである。取り組みに際しては、左足の太股にサッパと呼ばれる取り紐を巻く。互いに右手でサッパを握って力を加え、投げを打つ。サッパは日本相撲のまわしの役割を果たす。日本の相撲では、行司がいて勝負の判定をするが、ここには行司役の姿はない。

サッパの「サッ」という言葉は股を指し、「パ」は綱を指す。かつては、相撲の形態にも種類があった。左シルムというものは、サッパを右足に縛るもので、現在全国的に認められる種類である。右シルムというものは左足に縛るものである。また、帯シルムは、腰に綱をまくものを指す。パシルムというのは、ソウルの一部地域のみに行われていたものであるが、サッパを自分の右腕と相手の左足のすねに巻き、腰のサッパをつかまずに行うものを指す。かつて、右シルムは京畿道や全羅道に、帯シルムは主として忠清道に見られたという。この絵の場合、左足にサッパを縛っている。京畿道あるいは全羅道の相撲の様子を描いたものであろうか。

相撲の取り組みを囲んで人々が見物しているが、その姿は立て膝か片膝立てが目立つ。帽子は脱いで膝元に置き、扇子をかざす人も目立つ。なかにはすでに履物を脱いで、次の取り組みの準備に入っている人も見受けられる。相撲を見物する人は全員男性であり、女性が一人もいないことに注意したい。見物の人々を相手に首から紐をかけて商品を入れた箱を支えてものを売る少年の姿が見える。これは飴売りと思われる。人々が集まる所には必ずといってもいいように飴売り姿があり、人々に親しまれていた。

この相撲は草相撲で、相撲好きの人々が集まってきたて行く。特に端午の節句に際して相撲が行われ、今に継承されている。朝鮮時代には絵のように着物を着たまま取り組んだが、現在は上半身裸で行う。(福田)

# 17 舞の喜び



1 舞う	1 춤을 추다
2 冠	2 무관
3 舞服 (舞童服)	3 무동복
4 帯	4 띠
5 パッチ	5 바지
6 脚絆	6 행전
7 皮履 (バルマク)	7 발막
8 太鼓吊るし台	8 북좌
9 太鼓	9 북
10 桴	10 북채
11 フェルト帽 (ボンゴジ)	11 병거지
12 鉢巻 (網巾)	12 망건
13 鉢巻 (網巾) の紐	13 당줄
14 片膝立て	14 한쪽 무릎을 세우고 앉다
15 上衣 (号衣)	15 더그레

16 巾着	16 행낭
17 足袋	17 버선
18 帽子 (黒笠)	18 흑립
19 鞞鼓 (長鼓)	19 장고
20 胡坐をかく	20 책상다리를 하다
21 上衣 (小髻衣)	21 창옷
22 箒箒	22 향피리
23 縦笛	23 피리
24 軍服 (狭袖)	24 동달이
25 軍服 (戦服)	25 전복
26 横笛	26 대금
27 胡弓	27 해금

6人の樂士が演奏する前で少年が舞っている姿が描かれている。樂士の伴奏は、いわゆる三弦六樂という形態である（左上から座鼓、チャング〈杖鼓・長鼓〉、横笛〈大琴〉、胡弓）。左手前で舞う少年は、両手を上下に振り、足でステップを刻むように舞っている。顔はうつむいているが、口元が開き、自らの踊りに陶醉している様子だ。

奇妙な点もある。既に指摘されているが、奚琴を演奏する男の左手が裏返っている。また、聴衆がない。このため、この踊りと伴奏が具体的にどのような宴会や催し事で行われたものなのか、あるいは、その時代や背景を理解することに困難がある。

舞童の舞は、本来、宮廷で行われた。朝鮮半島では、新羅の時代に中国からもたらされた唐樂呈才、その後、新たに朝鮮半島で創作した郷樂呈才という舞踊があり、宮廷の饗宴や國賓に対する宴会で行われた。三弦六樂の伴奏も官衙の饗宴、地方郷校の祭祀、クッ・歌舞の伴奏などでよく演奏された。

樂士は官衙に隷属していたが、壬辰（1592）・丙子（1636）の兩乱によってその数が減少し、応急策として地方官衙から集めるようになった。いわゆる巫堂の夫、廣大や才人などである。それらの者は各地方の才人庁（神庁、掌樂庁、倡夫庁）などに所属し、地方長官の外出に伴う行列の前や、宴会などに呼ばれて、歌舞と音楽、演芸をみせるようになった。

現在、舞童は、民俗芸能として仮面劇の一部や農樂にその姿を残している。それは、子供を農樂隊員の肩の上に乗せて舞わすものであったり（全羅北道南原）、大人の肩に乗って舞い、鉦を手にして賽銭を集めたりするもので（慶尚北道河回）、絵の中の舞童とは大きく異なる。この舞童は、宮中で行われる舞の服装とも異なっている。服装としては、長衫を着て、袈裟を掛けた僧舞の姿に似ている点もある。この絵は、宮中から民間へとその担い手が移行していく過程のそれを描いたものではないだろうか。（中野）

# 18 少年たちのゴヌ遊び



1 解 <sup>ほつ</sup> れた髪	1 흐트러진 머리
2 チョゴリ	2 저고리
3 パッチ	3 바지
4 脚絆	4 행진
5 藁履	5 짚신
6 膝を抱える	6 무릎을 두손으로 안다
7 ざんばら髪	7 다팔머리
8 上半身裸	8 상반신을 드러내다
9 片肌ぬぎ	9 한쪽 어깨를 드러내다
10 駒の小石を摘む	10 돌(고누말)을 집다
11 お下げ髪を前方に垂らす	11 땅은머리를 앞으로 내리다
12 胸をはだける	12 가슴을 드러내다
13 履紐	13 들메
14 ゴヌ盤	14 고누판
15 小石	15 작은 돌
16 ゴヌ遊びをする	16 고누놀이를 하다
17 髻(メンサントウ)	17 맨상투
18 煙管	18 곰방대
19 藁履の底	19 짚신 바닥
20 片膝を立てて木にもたれる	20 한쪽 무릎을 세우고 나무에 기대다
21 股引	21 잠방이
22 粗朶	22 뿔나무
23 背負梯子を背負う	23 지게를 지다
24 息杖	24 지갯막대기
25 背負梯子(チゲ)	25 지게
26 背負い紐	26 밀빠
27 背当て	27 지갯등대
28 棧	28 세장
29 背負梯子の脚	29 동발

山へ入って粗朶などの薪を集めるのは、少年たちの重要な仕事の一つであった。図の中央に描かれた4人の少年たちは、粗朶を載せて運んでいた背負梯子(チゲ)を降ろして、ゴヌ遊びにふけている様子である。

ゴヌ遊びは庶民の遊びで、室内よりも屋外で行われた。特別な道具が必要でなく、小石があれば、それを駒として使い、地面にゴヌの盤を想定した図面を描いて遊べたので、仕事の手を休める間に気軽にできる遊びとして特に少年たちに好まれた。2人以上が集まると遊びが可能で、駒を動かして相手の駒を取るか、敵陣を占領することで勝敗を競った。将棋や囲碁の原初的なものとされ、地棋ともよばれた。図の中のゴヌ盤は、円形を4つの空間に分けて

おり、2つの小石をそれぞれの駒とする様子からは、ウムルコヌと呼ばれるもっとも単純で一般的に遊ばれたゴヌの種類のようなのである。少年たちは、仕事のことまで忘れて、ゴヌ遊びの勝負に夢中である。

薪や粗朶は重要な燃料であった。薪を集める専門の樵夫もいたが、農閑期に薪を集めて貯えておく場合が多かった。日課としては、主に子供の仕事とされた。図の中の少年は家事の手伝いとして、山で集めた粗朶を背負梯子いっぱい載せて帰る途中なのか。それとも両班家に仕える小作人で、木にもたれて一服する年長の監督のもとで粗朶を集めて、その帰途にゴヌ遊びを楽しむ様子のようにも見える。(金)

# 19 書堂での勉強



1 冠 (四方冠)	1 사방관
2 髻	2 상투
3 揉上げ	3 살쩍
4 顎鬚	4 가잡나룻
5 上衣 (道袍)	5 도포
6 腰帶	6 허리띠
7 文机	7 서안
8 指示棒 (書算棒)	8 서산대
⑨ 硯箱	⑨ 벼룻집
10 硯箱の蓋	10 벼룻집 뚜껑
11 硯	11 벼루
12 硯台	12 연상
13 泣く子供	13 우는 아이
14 お下げ髪	14 땅은머리
15 チョゴリ	15 저고리
16 バッチ	16 바지
17 裾紐	17 대님
18 足袋	18 버선
19 片膝立て	19 한쪽 무릎을 세우고 앉다
20 書物	20 책
21 ざんばら髪	21 다팔머리
22 鼻を穿る	22 코를 후비다
23 本をめくる	23 책장을 넘기다
24 跪いて両手をつく	24 무릎을 꿇고 두손으로 바닥을 짚다
25 上衣 (小氅衣)	25 장옷
26 襟	26 깃
27 掛け襟	27 동정
28 草笠	28 초립
29 笠紐	29 갓끈
30 鉢巻 (網巾)	30 망건
31 爪立ちして座る	31 발끝을 세워 꿇어앉다

日本の寺子屋にあたる朝鮮時代の書堂の風景を描いている。書堂は村の民間教育機関の役割を担っており、子供たちが5、6歳頃から『千字文』、『童蒙先習』、『通鑑』などの基礎的な漢文の教養を身につける場所であった。訓長と呼ばれる教師は、地方官吏の郷吏などが職を引退した後になるか、科挙に落第した漢学者などがなる場合が多かったという。学童の年齢や習う内容もそれぞれ異なっていた。図には髪がまだ短く、下げ髪ができない少年から、髻を結った少年まで、幅広い年齢の子供が描かれている。髻を結び、草笠を被った少年のように冠礼をした人も交じっている。

異なる内容をそれぞれ高い声で朗読していたため、書堂は常に騒々しかったというが、赤子の泣き声、砧打ちとともに「三好声」とされ、決して近所から抗議をうけることはなかったという。画面中央に片膝を立てている少年は、講読ができず、訓長から厳しく叱られたのか、泣きべそをかいている。他の少年らは泣いている少年をみて笑っている。泣きべその少年の傍には、書算棒が置かれている。書算棒は柴で作られたもので、本の中に挟む葉として使われたり、読書の回数を数えるためにも用いられた。また、講読の際には字を指す時に使われ、時には鞭としても用いられた書堂の必需品であった。泣きべその少年はこの書算棒で訓長から打たれたのだろう。書堂の雰囲気が生き生きと伝わる場面である。(金)

# 20 脱穀作業と監督する男



- |                    |                     |              |              |
|--------------------|---------------------|--------------|--------------|
| 1 稲束               | 1  벗단               | 23 鬘 (멘산트우)  | 23  맨상투      |
| ② 背負梯子 (チゲ)        | ② 지계                | 24 顎鬚        | 24 가잡나룻      |
| 3 背負梯子の爪           | 3 지겟가지              | 25 竹箒        | 25 대비        |
| 4 背負梯子の脚           | 4 동발                | 26 上半身裸      | 26 상반신을 드러내다 |
| 5 背負い紐             | 5 밀베                | 27 三角帽子      | 27 굵갈        |
| 6 息杖               | 6 지겟막대기             | ⑳ 稲束を縛る      | ㉘ 벗단을 묶다     |
| 7 鬘                | 7 상투                | ㉙ 番頭         | ㉙ 마름         |
| 8 鉢巻 (網巾)          | 8 망건                | 30 帽子 (黒笠)   | 30 후립        |
| ㉑ 稲束を運ぶ            | ㉑ 지계로 벗단을 나르다       | ㉑ 肘枕         | ㉑ 팔베게        |
| 10 肩衣              | 10 등거리              | 32 上衣 (中致莫)  | 32 중치막       |
| 11 股引              | 11 잠방이              | 33 笠紐        | 33 갓끈        |
| 12 腰帶              | 12 허리띠              | 34 パッチ       | 34 바지        |
| 13 巾着              | 13 행낭               | 35 脚絆        | 35 행진        |
| 14 裸足              | 14 맨발               | 36 跣足袋       | 36 버선 (불받기)  |
| ㉒ 稲束を打ち付けて脱穀する     | ㉒ 벗단을 쥐고 태질하다       | 37 房帶        | 37 술띠        |
| 16 解れ毛             | 16 흘러내린 머리          | 38 筵         | 38 돛자리       |
| 17 胸をはだける          | 17 가슴을 드러내다         | 39 皮履 (バルマク) | 39 발막        |
| 18 脱穀台             | 18 개상               | 40 長煙管       | 40 장죽        |
| ㉓ 稲束を縛り付けた紐を手首にかける | ㉓ 벗단을 묶은 끈을 손목에 두르다 | 41 煙草入れ      | 41 담배쌈지      |
| 20 足袋              | 20 버선               | 42 酒瓶        | 42 술병        |
| 21 藁履              | 21 짚신               | 43 湯呑        | 43 술잔        |
| 22 粨               | 22 낱알               | 44 鉢         | 44 사발        |
|                    |                     | 45 藁束        | 45 벧짚        |

秋の庭仕事の全体的な過程を描いている。左上に背負梯子(チゲ)に大量の稲束を付けて背負い、息杖で身体を支えながら運んでくる男性が描かれている。田で刈り取って、そこで干した稲を家に運んで脱穀作業をすることがこれで示されている。家に持ち帰られた稲は、屋敷内の庭で脱穀される。図の中央部にはその様相が示されている。

たい大きな丸木が台石や支え木の上に横たえられている。それに向かって3人の男性が稲束を手を持って打ち付けている。両手で藁束を持って打ち付けるが、右手は藁を縛った縄の端を輪にした部分を持ち、左手は藁を縛った縄を持っている。打撃によって脱穀するもので、穂先からはずされた粨粒は地面に広がっており、1人の男性が竹箒でそれを集めている。また別の男性が稲束を藁で縛っている。稲にはまだ粨が付いていることから判断して、脱穀台に

打ち付けるために、稲束をしっかりと縛りなおしているものと思われる。日本では稲穂から粨をはずす方法としては古くは扱き箒が用いられ、近世には千歯扱きが普及した。稲の脱穀法として打撃による方法は行われなかった。打撃による脱穀はもっぱら麦についての方法であった。朝鮮時代の打撃脱穀は中国とも共通しており、中国では現在も基本的に打撃法が行われている。

図の右上には筵を敷いて、上部には脱穀が終わって粨が外された藁束を置いて盛り上がらせ、その上に1人の人物が頭を片腕で支えながら寝そべり、左足を右足の上に乗せて、くつろいでいる。長い煙管で煙草を吸い、また横には酒が入った瓶と茶碗が置かれており、酒を飲みつつ作業を見ている様子といえよう。この家の番頭であろう。(福田)

# 21 水田を耕す



1 髷 (メンサントウ)	1 맨상투
2 肩衣	2 등거리
3 股引	3 잠방이
4 熊手鋤・三本鋤	4 쇠스랑
5 熊手鋤・四本鋤	5 쇠스랑
6 上半身裸	6 상반신을 드러내다
7 熊手鋤で耕す	7 쇠스랑으로 땅을 고르다
8 二頭牽きの犁	8 거리쟁기
9 鼻木	9 코뚜레
10 頭絡	10 우넘기
11 軛 <sup>くひき</sup>	11 멩에
12 腹帯	12 뱃대끈
13 手綱	13 고삐
14 犁	14 쟁기
15 練木	15 성에
16 犁柱	16 한마루
17 犁先	17 보습
18 犁身	18 술
19 犁で耕す	19 쟁기로 논을 갈다

男達が犁や熊手鋤で耕している姿が描かれている。耕地は田と見るのが無難である。働く男や牛の足元が土中に沈んで見えないように描くことで水田であることを示している。

田の手前では、2頭の牛が犁を牽き、それを男が1人で押している。牛の鼻輪から頭絡が伸び、首回りに軛状のものが装着され、胴に腹帯がまわされている。牛の間で2頭用の軛と犁とが縄などを用いて連結されていると考えられる。男が踏ん張りながら、犁身を押し、右手の鞭で牛にはっぱをかけているのだろう。水田にもかかわらず、牛が傾斜して描かれているのは、限られた空間に田起こしの全体を描き込むためだと思われる。後方では、2人の男が三本歯、及び四本歯の熊手鋤で田を起している。右側の男は上半身裸となっており、この作業も力仕事であることが分かる。犁で荒起こしされた土塊を砕いているのであろうか。股引は、腰のあたりで紐を用いてとめ、余分な布を折り返しており、当時の穿き方を窺うことができる。

2頭の牛で犁を牽く方法は日本では見られない。朝鮮半島で、2頭で犁を牽くのはキョリといい、1頭で牽くホリと区別される。前者は、畑が多い北方

で、後者は水田が多い南方で見られる。また、中国北方地域にも見られる。この絵からは朝鮮半島のどの地方の犁を描いたのかは分からない。2頭の牛は表情や色で描き分けられているが、例えば、犁を押す者から見て、左側の牛は力が必要であるためオスの牛を、右側の牛は、しつけが充分でなく、慣らされてない牛、特に、既に子どもを生んだメスの牛を配置するなど、地方によって異なった。

犁はおそらく無床、あるいは短床犁であろう。刃先も土中に入り、明瞭に確認できないが、2つの刃があるように見える。刃を2枚装置した犁については、旧ソ連、旧満州、日本などに類似の絵画資料が残されている。日本では『福岡県農務誌』にも類似の図が掲載されており、朝鮮半島から伝わったものと推測されている。朝鮮半島の犁は、長床犁として中国からもたらされたが、後に短床犁も使われ、日本の植民地時代には、多くの種類が存在した。朝鮮時代末には相当な発達があったものと推測される。その発達の過程の一端を示すという点で重要な絵であるが、この種の犁は中国や韓国の農書に描かれたことはなく、実物も現存していない。(中野)

## 22 糸紡ぎと筵編み

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 卷上げ髪          | 1 엷은머리          |
| 2 チョゴリ (ミンチョゴリ) | 2 민저고리          |
| 3 結び紐 (ゴルム)     | 3 고름            |
| 4 結び紐 (ソクゴルム)   | 4 속고름           |
| 5 腰帯            | 5 허리띠           |
| 6 チマ            | 6 치마            |
| 7 片膝立て          | 7 한쪽 무릎을 세우고 앉다 |
| 8 真綿            | 8 풀솜            |
| 9 糸を巻いた管        | 9 실뿔            |
| 10 管            | 10 가락           |
| 11 糸車           | 11 물레           |
| 12 管卷           | 12 양채           |
| 13 糸            | 13 물랫줄          |
| 14 重石           | 14 물랫돌          |
| 15 鍾台           | 15 괴머리          |
| 16 鍾差込          | 16 괴머리기둥        |
| 17 筧            | 17 소쿠리          |
| 18 糸を紡ぐ         | 18 실을 잣다        |
| 19 冠 (四方冠)      | 19 사방관          |
| 20 髻            | 20 상투           |
| 21 鉢卷 (網巾)      | 21 망건           |
| 22 顎鬚           | 22 가잡나룻         |
| 23 上衣 (小髻衣)     | 23 창옷           |
| 24 筵を編む         | 24 돛자리를 짜다      |
| 25 筵編機          | 25 자리틀          |
| 26 薦槌           | 26 고드랫돌         |
| 27 筵            | 27 돛자리          |
| 28 藁束           | 28 벧짚           |
| 29 ざんばら髪        | 29 다팔머리         |
| 30 肩衣           | 30 등거리          |
| 31 パッチ          | 31 바지           |
| 32 書物           | 32 책            |
| 33 指示棒 (書算棒)    | 33 서산대          |
| 34 朗読する         | 34 낭독하다         |



農家における主要な屋内作業として、男性の筵編み、女性の糸紡ぎを描いている。男性は立て膝をして、両手で薦槌を操作して編んでいる。すでに編み終えた筵が手前に巻き取られている。筵編機は、薦槌を付けた縦紐に藁を横に入れて編んでいくもの

で、道具としては日本の筵編機と同じである。編機の横には材料の藁束が置かれている。男性の左後方に女性が立て膝して座り、右手で糸車を回して、左手に持った真綿から引き出した糸を管へ巻き取っている。この作業は機織りの重要な準備であり、糸が



巻き取られた管は横の筴の中に置かれている。右上には大きな書物を開いて、指示棒（書算棒）を使いながら読んでいる少年が描かれている。この少年と筵編みの男性、糸紡ぎの女性とは家族を構成しているということになるだろうか。（福田）

# 23 機織りと女性

- |                            |            |                 |            |
|----------------------------|------------|-----------------|------------|
| ① 機 <small>ろくろ</small>     | ① 베틀       | 25 糸を巻いた管       | 25 실뚝      |
| 2 轆轤                       | 2 원산       | 26 筴            | 26 소쿠리     |
| 3 掛け糸吊し                    | 3 나부산대     | 27 管            | 27 가락      |
| 4 躑木                       | 4 신나무      | 28 管をいれる壺       | 28 가락통     |
| 5 足引き紐                     | 5 쇠꼬리      | 29 老婆           | 29 노파      |
| 6 緒卷 <small>おまさ</small>    | 6 도투마리     | 30 卷上げ髪         | 30 엷은머리    |
| 7 機草                       | 7 뱀덩이      | 31 チョゴリ(ミンチョゴリ) | 31 민저고리    |
| 8 掛け糸竹 <small>そうこう</small> | 8 잉앗대      | 32 襟            | 32 깃       |
| 9 綜統                       | 9 눈썹끈      | 33 掛け襟          | 33 동정      |
| 10 中筒                      | 10 사침      | 34 子供を負ぶう       | 34 아이를 업다  |
| 11 足引き                     | 11 끌신      | 35 チマの紐を掴む      | 35 치마끈을 잡다 |
| 12 柱                       | 12 앞다리     | 36 うない髪         | 36 짧은머리    |
| 13 桁                       | 13 누운다리    | 37 風車           | 37 바람개비    |
| 14 脚                       | 14 뒷다리     | 38 チョゴリ         | 38 저고리     |
| 15 腰掛                      | 15 앞을개     | 39 パッチ          | 39 바지      |
| 16 腰当の紐                    | 16 부티끈     | 40 刷毛           | 40 베솔      |
| 17 箴 <small>ひ</small>      | 17 바디      | 41 経糸           | 41 실       |
| 18 杼                       | 18 북       | 42 支え木          | 42 끌개      |
| 19 機を織る                    | 19 북질하다    | 43 重石           | 43 누름돌     |
| 20 前がらみ                    | 20 포목      | 44 粉殻の燃し火       | 44 것불      |
| 21 解れ毛                     | 21 흘러내린 머리 | 45 盥            | 45 대야      |
| 22 捲り上げた袖                  | 22 견어올린 소매 | 46 経糸の糊付け       | 46 베매기     |
| 23 結び紐(ゴルム)                | 23 고름      | 47 下着のパッチ       | 47 바지      |
| 24 チマ                      | 24 치마      | 48 藁履           | 48 짚신      |



家庭内での機織り作業を描いている。図の上部で緒卷から長く伸ばした経糸に刷毛で糊付けをしている。この糊付けで機織り過程での毛羽立ちを防ぎ、糸を強くする。女性は刷毛で糊を塗り、下から粉殻を燃して乾燥させている。横に置かれた鉢は糊を入れた器である。糸を横広く巻いた緒卷は板状の芯を回転させて巻き付け、一周毎に竹を挟み込んでいる。板状の緒卷は朝鮮独特のものである。糊付けを終えた緒卷を織機に設置して、機織りが行われる。

図の中央には女性が機織りをしている姿が描かれている。女性は左手で箴おさを持ち、右手に杼ひを持って、

緯糸を経糸の間に入れようとしている。右足の先には紐が結びつけられ、紐は竹籤につながり、その竹籤は支え棒につながっている。その先には経糸を上下させる綜統が結びつけられている。足で紐を引くと、支え棒が半回転して綜統が上がる。高機の基本的な仕組みは日本のものと同じであり、近代の織機にも共通している。女性の傍らに置いてある壺には使用済みの管が入れられ、筴には糸が巻きつけられた管が何本も入っている。



機織りをしている女性の背後で老女が子供を背負って機織りの様子を見ている。その横には風車を左手に持っている男の子がいる。老女は機織りをしている女性の姑であろうか。背負っている子供、横に立っている男の子は機織りをしている女性の子供の

ように見受けられる。おんぶ紐その他の用具を使用せずに腕を背後に回して気軽に子供を背負うのは日本や朝鮮の特色であり、西南中国の少数民族でもしばしば見られる。(福田)

# 24 魷の仕掛けで魚を獲る



1 魷 (防簾)	1 방렴
2 鳥	2 새
3 鬚 (メンサントウ)	3 맨상투
4 肩衣	4 등거리
5 股引	5 잠방이
6 籠	6 망태
7 箕	7 키
8 魚	8 생선
9 魚を受け取る	9 생선을 건네받다
10 煙管	10 곱방대
11 チョゴリ	11 저고리
12 甕	12 독
13 棹	13 샷대
14 船を漕ぐ	14 배를 짓다
15 魚を手に持つ	15 생선을 손에 들다
16 ざんばら髪	16 다팔머리
17 攪拌棒	17 막대기
18 釜	18 솥
19 竈	19 부뚜막
20 料理をする	20 요리를 하다
21 片膝立て	21 한쪽 무릎을 세우고 앉다
22 漁船	22 고깃배
23 舳先	23 이물
24 鱸	24 고물
25 苔	25 뜸

魷 (防簾) で魚を獲る風景が描かれている。魷漁法は、朝鮮半島西海岸に多く分布している。中央部に描かれているのが竹竿で作られた簾状の魷である。海底に固定した竹に網を設置し、潮の干満に応じて入ってきた魚が外へ出ていけないよう、迷路状の陥穽部分（イムトンという）が施されている。そこへ入った魚を、チョクデなどの小さな手網で捕獲するのである。

この絵では、魚の捕獲が、最終的にどのような陥穽具によってなされているのか、魷 (防簾) の中にいる2人が何を足場に立っているか、どのような漁具で魚を掬ったのかなど、詳細は分からない。一般に魷は、潮の干満と魚の習性に対応して設置されるため、一直線、放射線状や三角形などの比較的単純な形に網を固定することが多い。描かれた魷は屈曲が多く、かつ、全体が描かれていないため、設置された形態の全体像は分からない。

しかし、漁具の周囲の船の様子からは、魚を捕る

だけでなく、魚を船に移し、複数の船がその魚の行方に関わっていることが窺える。竈が設置されている船には大型の甕が複数ある。魚の運搬道具は、竹などで編んだ籠状のものが一般的である。また、この甕は飲み水用としては大きすぎ、生け簀代わりの活魚用としては、生食が一般に普及する時期を考えると早すぎる。おそらく、この図は、鮮魚の簡単な加工の過程を示していると考えられる。鮮魚は、塩をほどこすことで日持ちを長くすることができる。また、甕の中に塩と交互に重ね入れることで発酵させ、チョッカルという発酵食品にすることもできる。左の船の日除けの中にも、おそらく、竈と甕があるのではないだろうか。こうした竈を設置した部分を、トゥソクカンと呼ぶ。風や日差しを遮って、その下に作業空間を確保しているのである。

現代ではその価値も下がり、消えつつある漁法であるが、朝鮮時代においては、その漁獲が安定していたこともあり、経済的価値が高かった。(中野)

# 25 瓦屋根を葺く

- 1 瓦を片手で受け取る
- 2 胸をはだける
- 3 捲り上げた袖
- 4 股引
- 5 篋
- 6 平瓦
- 7 丸瓦
- 8 瓦屋根
- 9 葺き土
- 10 土居葺
- 11 髷(メンサントウ)
- 12 巾着
- 13 裸足
- 14 葺き土を引き上げる
- 15 瓦を投げ上げる
- 16 縄なわ
- 17 畚くわ
- 18 上半身裸
- 19 角柱
- 20 礎石
- 21 片目で垂直を測る
- 22 髷
- 23 鉢巻(網巾)
- 24 顎鬚
- 25 チョゴリ
- 26 結び紐(ゴルム)
- 27 パッチ
- 28 脚絆
- 1 기와를 한손으로 받다
- 2 가슴을 드러내다
- 3 걷어올린 소매
- 4 잠방이
- 5 주걱
- 6 암기와
- 7 수기와
- 8 기와지붕
- 9 흙반죽
- 10 너와
- 11 맨상투
- 12 행낭
- 13 맨발
- 14 흙반죽을 끌어올리다
- 15 기와를 던져올리다
- 16 새끼줄
- 17 삼태기
- 18 상반신을 드러내다
- 19 모기둥
- 20 주춧돌
- 21 한쪽 눈을 감고 다림을 보다
- 22 상투
- 23 망건
- 24 가잠나룻
- 25 저고리
- 26 고름
- 27 바지
- 28 행진

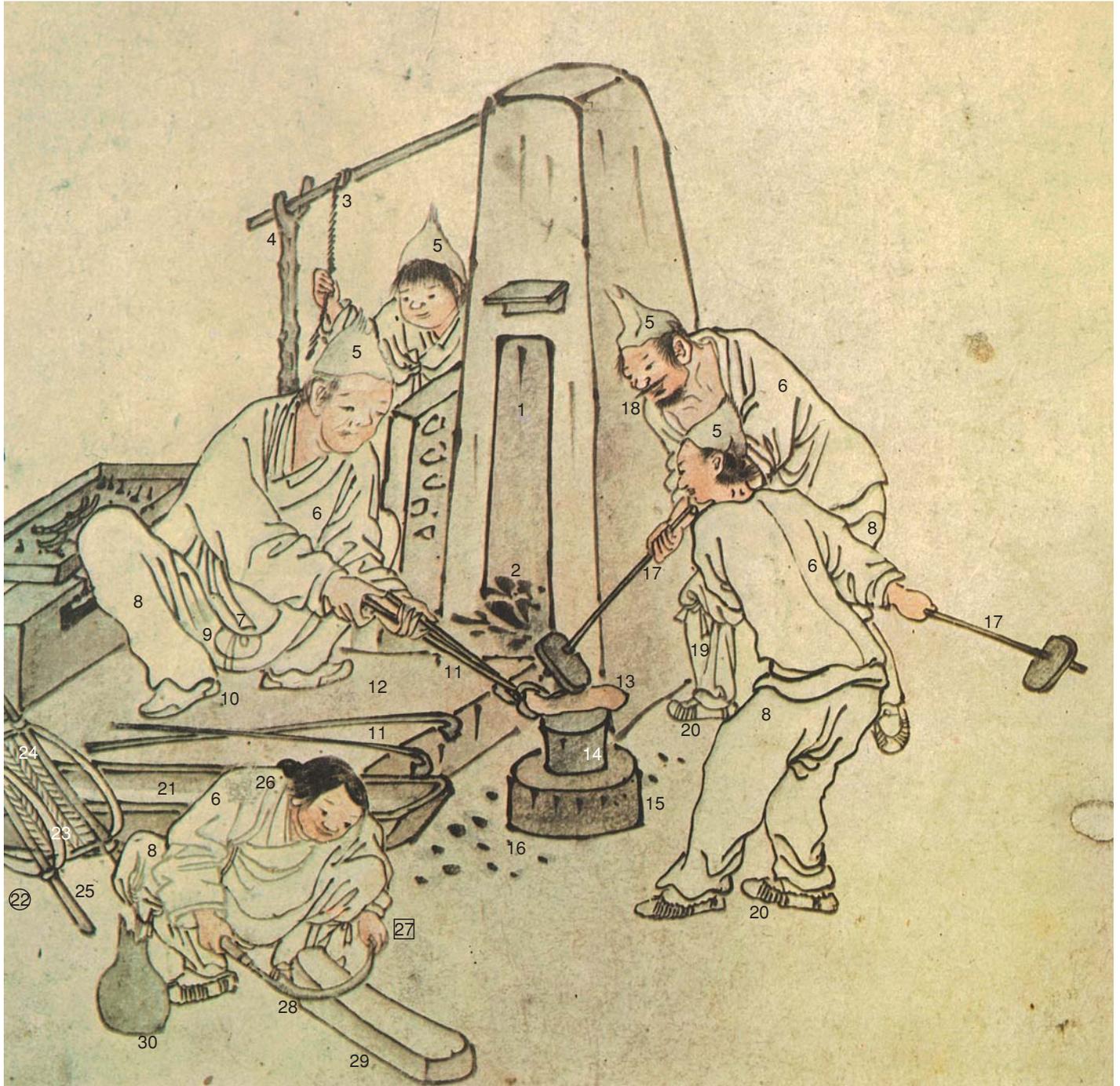
- 29 皮履(バルマク)
- 30 墨糸
- 31 墨壺
- 32 鉋をかける
- 33 台鉋
- 34 鉋の取っ手
- 35 鉋刃
- 36 鉋台
- 37 鉋屑
- 38 削り台
- 39 履紐
- 40 藁履かおじやく
- 41 曲尺
- 42 鋸
- 43 弦
- 44 捻り棒
- 45 鋸の支柱
- 46 取っ手
- 47 刃ちような
- 48 手斧
- 49 柄
- 50 作業を監督する
- 51 冠(四方冠)
- 52 上衣(小氈衣)
- 53 間竿けんざお
- 54 皮履(太史鞋)
- 29 발막
- 30 먹통끈
- 31 먹통
- 32 대패질을 하다
- 33 대패
- 34 대패손
- 35 대패날
- 36 대패집
- 37 대패밥
- 38 말
- 39 들메
- 40 짚신
- 41 곱자
- 42 톱
- 43 당개
- 44 당개나무
- 45 동발
- 46 톱손
- 47 톱날
- 48 자귀
- 49 손잡이
- 50 지붕이논 작업을 감독하다
- 51 사방관
- 52 창옷
- 53 측량막대기
- 54 태사혜

建築現場の作業風景を描いている。それぞれの作業が相互に関連しているというよりも、家屋の建築作業のいくつかを示そうとした図である。一般に絵画の題材にされることが少ない屋根葺きを中心に据えている点がおもしろい。瓦屋根は、屋根の下地として葺かれた土居葺きの板の上に、葺き土を置き、瓦を土で固定する。地面に上半身裸ですわり、丸くこねた葺き土を小さいもっこに入れる作業をしている。顔は別の方向を向いているので、それほどまじめに仕事をしていないことが分かる。もっこに入った土は屋根の上から引き上げられる。その様相が描かれている。そして、屋根の上ではベテランの職人であろうか、下から投げ上げられた瓦を手で掴むという技を示しながら、篋を用いて瓦を屋根に固定している。

屋根葺きが行われている柱の横では、一人の大工職人が墨壺の糸を垂らして、柱が垂直になっているかどうか片目をつぶって確認している。墨壺の中央部から垂直を決める糸が出されている。墨壺の中央部から糸を引っ張って垂直を確認することは日本でも近世初頭まで見られたが、その後はなくなり、中央部の糸も付けられなくなった。横には鉋を用いて板を削っている大工がいる。朝鮮半島の鉋も、中国と同じように、手前から前方に向かって押してかける突き鉋であった。その鉋がけをしている大工の足下には曲尺が置かれており、手前には鋸と手斧が置いてある。大工道具を示しているものである。これらの作業を背後で間竿を抱えて見ている人物がいる。その服装から判断して、大工の棟梁であると推測される。(福田)



# 26 村の鍛冶屋



1 火炉 <sup>ほど</sup>	1 용광로
2 炭	2 숯
3 支え綱	3 손잡이 줄
4 叉木	4 가장귀나무
5 三角帽子	5 굿갈
6 チョゴリ	6 저고리
7 結び紐 (ゴルム)	7 고름
8 パッチ	8 바지
9 巾着	9 행낭
10 洗足袋 <sup>はだしたび</sup>	10 버선 (볼받기)
11 鉄 <sup>やつとこ</sup>	11 집게
12 横座	12 상좌
13 鋼 <sup>はがね</sup>	13 시우쇠
14 金床	14 모루
15 金床台	15 모루대
16 鉄屑	16 쇠똥
17 向う錠	17 앞메
18 髭	18 수염
19 脚絆	19 행진
20 藁履	20 짚신
21 水槽	21 수조
㉔ 背負梯子 (チゲ)	㉔ 지게
23 背負い紐	23 밀뻐
24 背当て	24 등태
25 背負梯子の脚	25 등발
26 お下げ髪	26 땅은머리
㉗ 鎌を研ぐ	㉗ 낫을 갈다
28 鎌	28 낫
29 砥石	29 숫돌
30 瓶	30 병

鍛冶屋の作業風景を取りだして描いている。正面に据え付けられているのは火炉であり、燃やし口には炭と鉄の原材料が入れられ、高温にして軟らかく加工しやすくするため、隣で小僧が支え綱に頼りながら鞆を踏んでいると判断される。火炉は三方を土壁で囲われる竈の形をしていることが注目される。鞆は足踏み式の鞆であろう。3人の職人が赤く焼けた鉄を打っている。横座の職人はしゃがみ込むようにすわり鉄で鉄を挟んで金床上に安定させ、先手の2人が交互に錠を振り下ろして、鉄を打ち整形をしている。日本では、横座にいる親方が片手に小さな錠を持ち、形状を整えるが、ここでは鉄のみを持っ

ている。横座にいて鉄を使っている職人の横には大きさの異なる鉄が置かれ、その手前には水を入れた水槽が見られる。打った鉄を冷やし焼き入れするためのものである。職人の後には箱が置かれ、その上には平たい長方形の箱が置かれているが、ここには鉄の原材料が入れられているのであろう。

手前では1人の人物が大きな砥石で鎌の刃を研いでいる。横には壊れた瓶があるが、ここには水が入っているのであろう。打ち上げた鎌の仕上げをしているものと思われるが、研いでいるのは鍛冶屋職人ではなく、鎌を発注した人物が自分の好みに合わせて仕上げている可能性がある。(福田)

## 27 煙草を刻む



煙草生産の様相を描く。手前に描かれた上半身裸の男性は、煙草の葉を一枚一枚丁寧に扱い、葉の枯れた部分、腐った部分や筋やゴミを取り除いて、きれいに揃えて重ねている。その重ねた葉を手で押さえて、押しきりで一定の幅に切る作業がその向かい側で行われている。長い押し切りを使用している。その横には長方形の箱が置かれている。貴重な品を入れるためのものであることが、錠前が付けられていることで分かる。この場所に置かれていることが

ら判断して、貴重品である煙草の刻んだものをしまうものであったろう。左側手前にいる男性は、扇子で扇ぎつつ、書物を読んでいる。この人物が煙草生産とどのような関係になるのかははっきりしないが、この家の主人の可能性はある。

朝鮮半島における煙草は17世紀初頭に日本から伝わったものとされる。日本から伝来したものは古くは倭草とか南草と呼ばれ、中国や南蛮渡来の煙草は西草と呼ばれたという。煙草は急速に普及し、煙

- |                        |                      |
|------------------------|----------------------|
| 1 髷                    | 1 상투                 |
| 2 鉢巻 (網巾)              | 2 망건                 |
| 3 片肌ぬぎ                 | 3 한쪽 어깨를 드러내다        |
| 4 チョゴリ                 | 4 저고리                |
| 5 パッチ                  | 5 바지                 |
| 6 跣足袋 <sup>はだしたび</sup> | 6 버선 (불받기)           |
| 7 押切り                  | 7 작두                 |
| 8 蝶番                   | 8 고두쇠                |
| 9 煙草の葉を刻む              | 9 담배잎을 썰다            |
| 10 煙草の葉                | 10 담배잎               |
| 11 煙草の葉のくず             | 11 담배잎 조각            |
| 12 筵                   | 12 돛자리               |
| 13 長櫃                  | 13 켜                 |
| 14 錠前                  | 14 자물쇠               |
| 15 髷 (メンサントウ)          | 15 맨상투               |
| 16 前屈みで櫃にもたれかかる        | 16 몸을 앞으로 구부려 켜에 기대다 |
| 17 裸足                  | 17 맨발                |
| 18 三角帽子                | 18 곱갈                |
| 19 顎鬚                  | 19 가잠나룻              |
| 20 肩衣                  | 20 등거리               |
| 21 扇子                  | 21 접부채               |
| 22 書物                  | 22 책                 |
| 23 揉上げ                 | 23 살쩍                |
| 24 上半身裸                | 24 상반신을 드러내다         |
| 25 煙草の葉を整える            | 25 담배잎을 다듬다          |
| 26 煙草の葉の筋              | 26 담배잎 줄기            |
| 27 胡坐をかく               | 27 책상다리를 하다          |
| 28 股引                  | 28 잠방이               |

草生産も盛んになった。朝鮮時代の煙草生産は、特別な規制も、また課税対象でもなかったもので、農民たちの副業として重要な位置を占めた。

17世紀中葉、煙草の販売は葉草塵が専門的に行った。ソウルの城外に住む煙草生産者は、城内で消費者へ直接煙草を売ることができなかった。煙草は、はじめは葉自体を煙管に詰めて吸う方法が主であったが、次第に葉を短く切って煙管に詰めて吸う方法も好まれるようになった。葉を短く加工する者を折

草人といった。ここに描かれているのは折草人の作業現場と思われる。折草人は、葉を葉草塵から購入して加工し、販売していたが、その増加は葉草塵の独占を脅かすようになった。19世紀以後は、葉草・折草を加工し、紅草・匣草・市草・元草など、煙草の種類も多様化した。(福田)

# 28 蹄鉄打ち



1 蹄鉄を打つ	1 편자를 박다
2 三角帽子	2 곳갈
3 顎鬚	3 수염
4 装蹄鎚	4 대갈마치
5 上半身裸	5 상반신을 드러내다
6 パッチ	6 바지
7 巾着	7 행낭
8 蹄鉄	8 편자
9 足を縛って仰向けにする	9 다리를 묶어 거꾸로 눕히다
10 棒	10 막대기
11 縄	11 새끼줄
12 髻 (メンサントウ)	12 맨상투
13 髻	13 가잠나룻
14 チョゴリ	14 저고리
15 結び紐 (ゴルム)	15 고름
16 馬	16 말
17 轡	17 재갈
18 面懸 <small>おもがひ</small>	18 굴레
19 手綱	19 고삐
20 たてがみ	20 갈기
21 蹄刀	21 제로
22 蹄鉄用釘	22 대갈
23 籠	23 광주리
24 鉢	24 사발
25 飯台	25 사각반

馬の足に装蹄を行っている様子が描かれている。馬は四肢を締め上げられ、背を下に仰向けになっている。馬の足は縄と木の棒で締め上げられているが、木の棒と縄は固定されていない。右側の男が両手で棒を握り、馬の足が動かないように押さえている。左側では、上半身裸の男が左手で馬の足を握り、右手の金槌で蹄鉄を打っている。蹄鉄は釘で蹄に打ち付けられて留められる。手前に見える押し切りのようなものは、蹄鉄を打つ前に蹄を平らに削るために用いられた蹄刀ではないかと推測される。

蹄の摩滅を防ぐために使用する蹄鉄は、古くはピョンジャ、またはデカル（代葛）といった。かつては、凍った道でも滑らないように葛で蹄を包んだが、これはまた蹄の摩滅を防ぐ効果もあった。『増補文献備考』（兵考 馬政篇）（1903）によると、尹弼尚（1427～1504）が建州（女真）の偵察に行く際、葛の代わりに鉄を用いて利用したのが蹄鉄の始まりだとされている。

後方に見える小さなテーブルの上には器が載って

いる。蹄鉄の行為と直接の関係がないように思われるが、『韓国馬文化発達史』によれば、少人数で、しかも素朴な技術で装蹄を行うため、その実施は困難であり危険性が伴う。そのため、実施する前に予め浄水を準備し、告祀や祭祀を行ったのではないかとする。朝鮮半島において馬は、軍事、運搬や農耕、帽子の素材として利用されるだけでなく、信仰の世界においても様々に象徴される重要な存在であり、近年まで馬に関わる祭儀は各地に残っていた。太宗13年（1413）、王室や儀礼に関わる事務、科挙などを施行する礼曹という機関が、馬の儀礼に関して「巫規<sup>(ママ)</sup>」として馬神を祭祀することは淫祀だとし、司僕官がするようにという命令を出している。日本においては、近世までは蹄鉄は用いられず、専ら藁の馬杓をはかせていた。明治に入り、陸軍がヨーロッパから蹄鉄を導入した。それに対し、すでに朝鮮時代から蹄鉄が用いられていたことは大いに注目される点である。（中野）

# 29 旅籠での食事

- |                         |             |
|-------------------------|-------------|
| 1 草屋根                   | 1 초가지붕      |
| 2 垂木                    | 2 서까래       |
| 3 掘立柱                   | 3 기둥        |
| ④ 女将 (酒母)               | ④ 주모        |
| 5 巻上げ髪                  | 5 얹은머리      |
| 6 チョゴリ                  | 6 저고리       |
| 7 結び紐 (ゴ름ム)             | 7 고름        |
| 8 襟                     | 8 깃         |
| 9 掛け襟                   | 9 동정        |
| 10 袖口                   | 10 거들지      |
| 11 チマ                   | 11 치마       |
| 12 食べ物を盛る               | 12 음식을 담다   |
| 13 飯茶碗                  | 13 밥그릇      |
| 14 杓子                   | 14 구기       |
| 15 瓶                    | 15 병        |
| 16 甕                    | 16 동이       |
| 17 大鉢                   | 17 자배기      |
| 18 風呂敷 (褌)              | 18 보        |
| 19 井                    | 19 사발       |
| 20 竈 <small>가마도</small> | 20 부뚜막      |
| 21 子供                   | 21 아이       |
| 22 短髪                   | 22 단발       |
| 23 下げ髪                  | 23 내린머리     |
| 24 煙管                   | 24 곱방대      |
| 25 銭を取り出す               | 25 돈을 꺼내다   |
| 26 臍を出す                 | 26 배꼽을 드러내다 |
| 27 巾着                   | 27 행낭       |
| 28 パッチ                  | 28 바지       |
| 29 荷を背負う                | 29 짐을 지다    |
| 30 竹笠                   | 30 패랭이      |
| 31 笠紐                   | 31 갓끈       |
| 32 鉢巻 (網巾)              | 32 망건       |
| 33 鉢巻 (網巾) の紐           | 33 당줄       |
| 34 匙                    | 34 숟가락      |
| 35 深鉢                   | 35 뚜껑배기     |
| 36 皿                    | 36 보시기      |
| 37 小鉢                   | 37 종발       |
| 38 飯台                   | 38 사각반      |
| 39 藁履                   | 39 짚신       |
| 40 履紐                   | 40 들메       |
| 41 食事をする                | 41 식사를 하다   |
| 42 板石                   | 42 판석       |
| 43 垣根                   | 43 울타리      |



酒幕とよばれる旅籠屋の一角を描いている。酒幕は、食事と酒を売りながら、旅人を宿泊させたりもする居酒屋兼宿屋であった。市場の近くや、峠、渡し場などに多かったが、倉庫や厩をも備えた規模の大きいものから、図のような飲食を中心とした小さな旅籠屋まで、規模は様々であった。庶民の旅人や市を回る商人たちが主な利用客であった。図の酒幕には、酒母と呼ばれた店の女将と子供、そして2人の客が描かれる。女将は座っているようにみえる。旅籠屋は、女将が縁側に座ったまま食事を出すことができるように、母屋と竈の間に縁が繋がっている構造が多かったというが、図の中の女将は縁に座っているのであろう。食べ物の器や酒瓶などが並べられている平らな台は、焚口は描かれていないものの、竈であると思われる。

2人の客のなかで、竹笠をかぶり、平らな板石に腰をおろしている男は、食事をしている姿である。やや大きめの器を傾けて匙ですくう様子から、食べ物はご飯に汁をかけて深鉢に出されるジャンクッパと推測されるが、それは旅路の人や食事を急ぐ人々に好まれ、酒幕の看板メニューであった。煙管を口にくわえている男は器売りの行商人のようで、器を背負っている。巾着から銭を出している様子から、食事か酒代を払おうとしているのか。

図の中の旅籠屋は、草葺屋根に掘立柱の粗末な作りで、女将の服装も白のミンチョゴリといった素朴なことから、田舎の街道沿いにある典型的な小さな酒幕を描いたものであろう。(金)



# 30 背負う男・いただく女



- |                     |              |
|---------------------|--------------|
| 1 フェルト帽 (ボンゴジ)      | 1 병거지        |
| 2 フェルト帽の紐           | 2 병거지 끈      |
| 3 顎鬚                | 3 가잡나룻       |
| 4 チョゴリ              | 4 저고리        |
| 5 捲り上げた袖            | 5 걷어올린 소매    |
| 6 巾着                | 6 행낭         |
| 7 パッチ               | 7 바지         |
| 8 脚絆                | 8 행전         |
| 9 藁履                | 9 짚신         |
| 10 履紐               | 10 들메        |
| 11 息杖               | 11 지갯막대기     |
| 12 樽                | 12 나뭇통       |
| 13 紐                | 13 끈         |
| 14 箍 <sup>たが</sup>  | 14 테         |
| ⑮ 背負梯子 (チゲ)         | ⑮ 지게         |
| 16 背負梯子の爪           | 16 지갯가지      |
| 17 背負梯子の脚           | 17 동발        |
| 18 背負い紐             | 18 밀배        |
| ⑲ 背負梯子を背負う          | ⑲ 지게를 지다     |
| 20 籠                | 20 광주리       |
| 21 籠の縁              | 21 광주리테      |
| 22 輪                | 22 또아리       |
| 23 ざんばら髪            | 23 다팔머리      |
| ⑳ 頭上運搬              | ㉔ 머리에 이고 나르다 |
| ㉕ 子供を負ぶう            | ㉕ 아이를 업다     |
| 26 赤ん坊              | 26 유아        |
| 27 ねんねこ絆纏           | 27 긴저고리      |
| 28 おんぶ紐             | 28 포대기띠      |
| 29 たくしあげたチマ (ゴドルチマ) | 29 거들치마      |
| 30 杖                | 30 지팡이       |
| 31 下着のパッチ           | 31 바지        |

夫婦にみえる2人が物を運んでいる様子である。男性は背負梯子に樽を、女性は赤子を背負い大きい籠を頭上運搬している。荷の桶はたがで締めた木製品である。籠は葦か藁で編み、縁は竹を回し紐や蔓などで留めたようである。

男性は身分の低い庶民が被るボンゴジと呼ばれる毛の帽子を被り、袖をまくったチョゴリに裾紐で留めたパッチを穿いている。女性はねんねこ絆纏の中に入れた赤子をおんぶ紐で留めている。チマはかな

り上までまくっており、その下にみえる下着のパッチは、男性と同じように裾紐で膝のあたりで留めている。短くまとまっていない髪の色も鬚を結っている様子ではなく、既婚の女性の髪型にしてはかなり粗野である。遠い道のりの行商にでも出かけるのか、背負梯子用の息杖をもつ男性だけではなく、女性も杖を持つ。「男負女戴」は、貧しい庶民の夫婦を象徴する表現としてよく引用されるが、2人の姿は典型的な「男負女戴」の姿である。(金)

# 31 占卦

- |                               |               |
|-------------------------------|---------------|
| 1 山形の頭巾                       | 1 곶갈          |
| 2 顎鬚 <small>こくえ</small>       | 2 가잡나룻        |
| 3 黒衣 <small>くろい</small>       | 3 장삼          |
| 4 桴 <small>ばち</small>         | 4 북채          |
| 5 柄付太鼓                        | 5 소고          |
| 6 藁履 <small>わら지</small>       | 6 짚신          |
| 7 猿麻杖笠 <small>さるまがせがさ</small> | 7 송낙          |
| 8 白衣 <small>びやくい</small>      | 8 백의          |
| 9 木鐸                          | 9 목탁          |
| 10 撞木 <small>つづき</small>      | 10 당목         |
| 11 背囊 <small>はいのう</small>     | 11 바탕         |
| 12 銭                          | 12 엽전         |
| 13 札                          | 13 껍          |
| ⑭ かつぎ (長衣)                    | ⑭ 장옷          |
| 15 袖口                         | 15 거들지        |
| 16 かつぎ (長衣) の結び紐              | 16 장옷고름       |
| 17 卷上げ髪                       | 17 엷은머리       |
| 18 畳んだかつぎ (長衣)                | 18 집은 장옷      |
| 19 チョゴリ (半回装)                 | 19 반회장저고리     |
| 20 結び紐 (ソクゴルム)                | 20 속고름        |
| 21 チマ                         | 21 치마         |
| 22 巾着                         | 22 행낭         |
| ㉓ 巾着から銭を取り出す                  | ㉓ 행낭에서 돈을 꺼내다 |
| 24 下着のバッチ (ダンソッゴツ)            | 24 단속곳        |
| 25 下着のバッチ                     | 25 바지         |
| 26 鍋                          | 26 냄비         |
| 27 盥 <small>かん</small>        | 27 대야         |
| 28 禿 <small>かむろ</small>       | 28 기녀의 하녀     |
| ㉔ 頭上運搬                        | ㉔ 머리에 이고 나르다  |
| 30 お下げ髪                       | 30 땅은머리       |
| 31 お下げ髪の先飾り (デンギ)             | 31 댕기         |
| 32 チョゴリ (ミンチョゴリ)              | 32 민저고리       |
| 33 長煙管                        | 33 장죽         |
| 34 たくし上げたチマ (ゴドルチマ)           | 34 거들치마       |
| 35 団扇 <small>うちあし</small>     | 35 짚부채        |

僧侶に占いをしてもらっている女性と供の子供の姿が描かれている。左上には2人の僧侶が立ったまま経文を唱えている。傍らには背囊が置かれており、この2人は托鉢をしながら旅回りをする僧侶のようである。奥の者は、サルオガセで編まれた笠をかぶり、右手の木鐸を、左手の撞木で叩いている。左利きのようだ。手前の者は山形の頭巾を被り、右手のばちで柄付太鼓を叩いている。柄付太鼓は木製の台で支えられているようだが、桴弓の太鼓である可能性もある。2人の前の地面には、占いに用いる紙か布状のものが敷かれ、紙牌、銭（葉銭）らしきもの

などが置かれている。占いの具体的な方法は分からないが、卦の一種であろう。

占ってもらっている女性は、衣かつぎをしている。上衣は半回装チョゴリである。朝鮮時代、チマの内側には複数の下着を重ね着し、下半身を豊かに見せることが流行っていた。女性は、チマの内側の衣類を見せることがおしゃれでもあった。この女性にもそれを窺うことができる。手前の女の子には自分の煙管を持たせている。一般に女性は煙草を吸わなかったが、老女、寡婦、妓女などは嗜む場合も少なくなかった。この若い女性は庶民ではなく、妓女であろう。女の子は、左手に煙管を、右手に団扇を持って立っている。この者は下げ髪にテンギを垂らし、頭上運搬をしたまま立っている。妓女につき従い、身の回りの手伝いをする女の子と思われる。運搬物は、盥状の器に入れられた鍋である。他に荷物はないので、ごく近くから出かけてきたものと思われる。荷物の鍋は、普通の持ち物とは思われない。荷物を降ろさずにいる姿からは、道中、たまたま通りかかった僧侶の前で、ふいに占いをしてもらった様子が窺われる。女性は、腰に吊した巾着の中に手を入れている。僧侶へあげるお金を出すところなのであろう。(中野)



## 32 嫁迎いの行列



婚姻儀礼のうち、親迎（嫁迎え）に向かう行列を描いた場面である。新郎の醮行、または初行ともいい、婚礼の当日、新郎が新婦を迎えに新婦の家に向かう行列である。朝鮮時代の婚礼は、議婚と大礼に大別される。議婚は、親迎が行われる以前のすべての儀礼で、大礼は、議婚を経て、親迎から新郎が新

婦の家で行うすべての儀礼をいう。

新郎は、親迎の前に、婚礼を行うことを祖先に告げる醮礼の儀をあげ、新婦の家に向かう。新郎の服装は、官僚の礼服である団領に角帯と呼ばれる帯をし、紗帽という礼帽をかぶる。これを「紗帽冠帯」という。厳格な身分社会であった朝鮮時代には、身

- |                          |         |
|--------------------------|---------|
| 1 添い聲                    | 1 유모    |
| 2 かつぎ (長衣)               | 2 장옷    |
| 3 袖口                     | 3 거들지   |
| 4 チョゴリ                   | 4 저고리   |
| 5 結び紐 (ゴルム)              | 5 고름    |
| 6 チマ                     | 6 치마    |
| 7 鞍                      | 7 안장    |
| 8 馬                      | 8 말     |
| 9 手綱                     | 9 고삐    |
| 10 下着のパッチ                | 10 바지   |
| 11 藁履                    | 11 짚신   |
| 12 ざんばら髪                 | 12 다팔머리 |
| 13 鞞 <small>しりがい</small> | 13 밀치   |
| ⑭ 新郎                     | ⑭ 신랑    |
| 15 帽子 (紗帽)               | 15 사모   |
| 16 公服 (団領)               | 16 단령   |
| 17 笏                     | 17 홀    |
| 18 角帯                    | 18 각대   |
| 19 たてがみ                  | 19 갈기   |
| 20 鈴 <small>あおり</small>  | 20 고들개  |
| 21 泥障 <small>あぶみ</small> | 21 다래   |
| 22 鐙                     | 22 등자   |
| ⑳ 馬丁                     | ㉓ 말구종   |
| 24 フェルト帽 (ボンゴジ)          | 24 병거지  |
| 25 鉢巻 (網巾)               | 25 망건   |
| 26 鉢巻 (網巾) の紐            | 26 당줄   |
| 27 上衣 (号衣)               | 27 더그레  |
| 28 パッチ                   | 28 바지   |
| 29 脚絆                    | 29 행전   |
| 30 鞭                     | 30 채찍   |
| 31 引き綱                   | 31 끌줄   |
| 32 巾着                    | 32 행낭   |
| ㉓ 雁持ち (雁夫)               | ㉓ 기력아비  |
| 34 帽子 (黒笠)               | 34 흑림   |
| 35 笠の飾り紐 (貝纒)            | 35 패영   |
| 36 顎鬚                    | 36 가잡나룻 |
| 37 礼服 (簡易団領)             | 37 훌럭   |
| 38 雁                     | 38 기러기  |
| 39 鹿皮履                   | 39 목화   |
| 40 青紗燈籠                  | 40 청사초롱 |
| 41 蠟燭                    | 41 초    |
| 42 裸足                    | 42 맨발   |

親迎の行列には、花婿以外に上客、後行、青紗燈籠、雁を持つ雁持ち（雁夫）などが同行する。上客は祖父か父親、もしくは伯父が、後行は近親の人が務めるのが一般的とされるが、図には上客も後行も描かれていない。

行列の先頭には青紗燈籠を持つ2人の男性が行列を導いている。婚礼に使われる青紗燈籠は、薄絹の青い紗の包みの上部に赤の紗を当てて、中に蠟燭を灯したものである。本来は宮廷で使われていたもので、正二品以上の位の高い官僚にも使用が許されていた。しかし、婚礼の時には庶民にもその使用が許され、青紗燈籠は婚礼を象徴するものになった。

青紗燈籠の後ろには、雁を手を持った雁夫と呼ばれる男性が続く。雁は奠雁之礼に新郎によって新婦の婚主（父親）に捧げられる。雁は、一度結ばれると添い遂げ、死に別れても新しい連れを迎え入れないといわれ、新郎の新婦に対する一生変わらない誓約を象徴する。婚礼に用いられる雁は、生きたものと木彫りの2種類があるが、図の中で雁持ちが持っているのは嘴が括られており、生きた雁であろう。

新郎の後ろの女性は、新郎側が新婦を迎えるために親迎に同行させた人であろう。裕福な家では新郎の乳母が務めるが、その他は親族の女性が同行し、儀礼の間に新郎の世話をする。日本の添い嫁は、嫁方が立てるのが普通で、新郎側が立てることは少なく、しかも世話をするのは嫁であり新郎ではない。この相違は注目される。(金)

分によって服飾が厳しく制限されていたが、庶民であっても婚礼の日のみ、紗帽冠帯といった両班官僚の服装が許された。新郎の乗る馬は白馬が好まれたというが、図の中の新郎も白馬に乗り、団領に角帯、そして紗帽をかぶり、手には笏を持っている朝服の姿である。